

アパート体験利用事業2019 (社会福祉法人丸紅基金 助成事業) 事業報告

令和元年11月5日
徳島県精神保健福祉士協会
会長 黒下 良一

◆2019年度アパート体験の実施期間
2019年5月20日(月)～8月9日(金)

《対象物件》

徳島市南島田町の単身者用アパート
※家具什器等付き、駐車場有

《対象者》

主に精神科病院に長期入院している方や
一人暮らしに対して不安を感じている方

「アパート体験利用事業」を企画した経緯

- 前身の居住支援における活動¹⁾から
 - 徳島市内は低額な賃貸物件が多い
 - 保証人に関する課題も働きかけ次第？
 - 不動産関係者も支援者との連携を望んでいる
- **住もうと思えば住める場所は結構ある？**
- 見えてきた課題
 - 「地域で住むための受け皿はある」ということの認知、啓発不足
 - ニーズの掘り起こしが必要（退院意欲の喚起）
 - 地域移行を考えていく上で、「生活の場」のイメージを持っていただくことが必要ではないか（支援者も含めて）

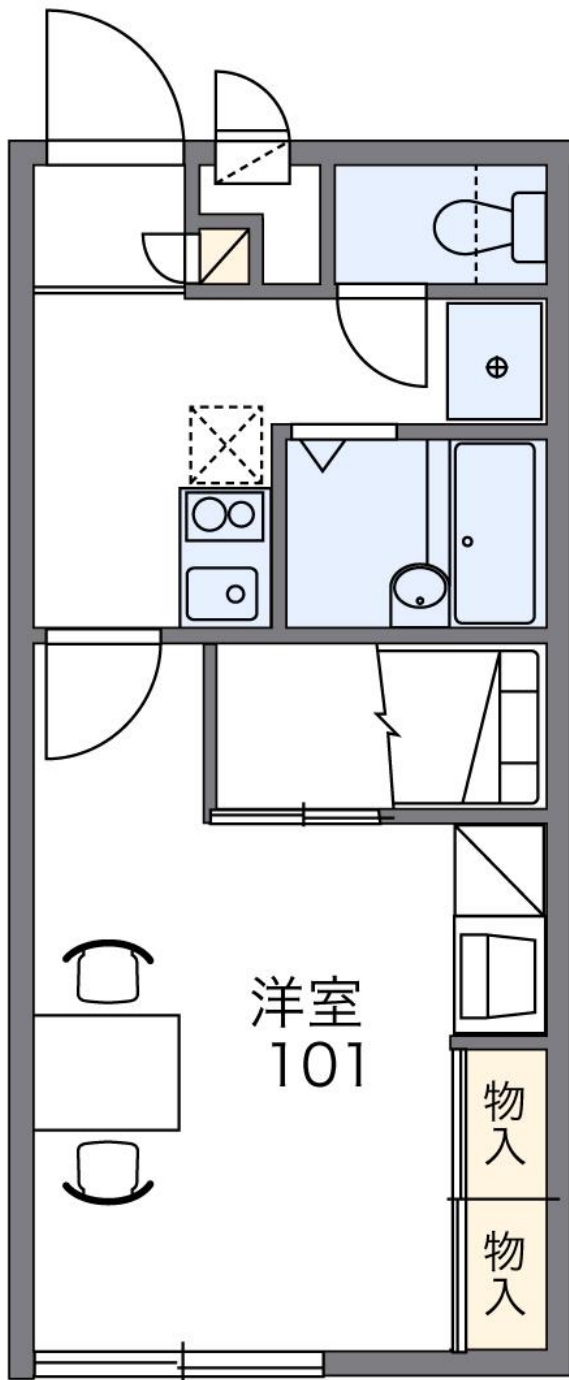
1) 四国地区における住居確保に関するモデル活動研修会 平成25年5月～平成28年3月
※「日本更生保護協会」からの助成にて活動

入院中でも、気軽に地域生活を体験できる機会があれば・・・



- 平成27～29年に3か所(徳島市、鳴門市)、体験用のアパートを契約
 - 主に精神科病院に長期入院している方や一人暮らしに対して不安を感じている方を対象
 - 延べ60名以上の入院患者が利用
- ⇒見学のみも可、炊事を体験したり、宿泊する方も

※アパートの賃貸費用については各種団体、企業からの助成金制度を活用 ※日本更生保護協会、大同生命



今年度は
5月20日～8月9日に実施

徳島市南島田町内の
単身用アパート(家具什器付き)

スーパーまで徒歩5分

電気代 無料

緊急連絡用の携帯電話付き

※条件が整えば宿泊も可能





「私も、こういうところに住めるかも・・・？」



その他、炊飯器、お米、食器、日用品なども準備

事業の流れ

1. 事業の啓発

- ・関係機関への周知(案内発送、説明会(3月)の開催)
- ・精神科病院内での案内掲示、各支援者より個別の声掛け

2. 利用申し込み

- ・希望者の支援機関より協会事務局へ申込(日時や人数など)
- ・利用者、支援者へ向けた書面の提示(アンケート、誓約書等)

3. 利用直前～利用中

- ・アパートへの案内や緊急時の対応は各利用者の支援者に依頼

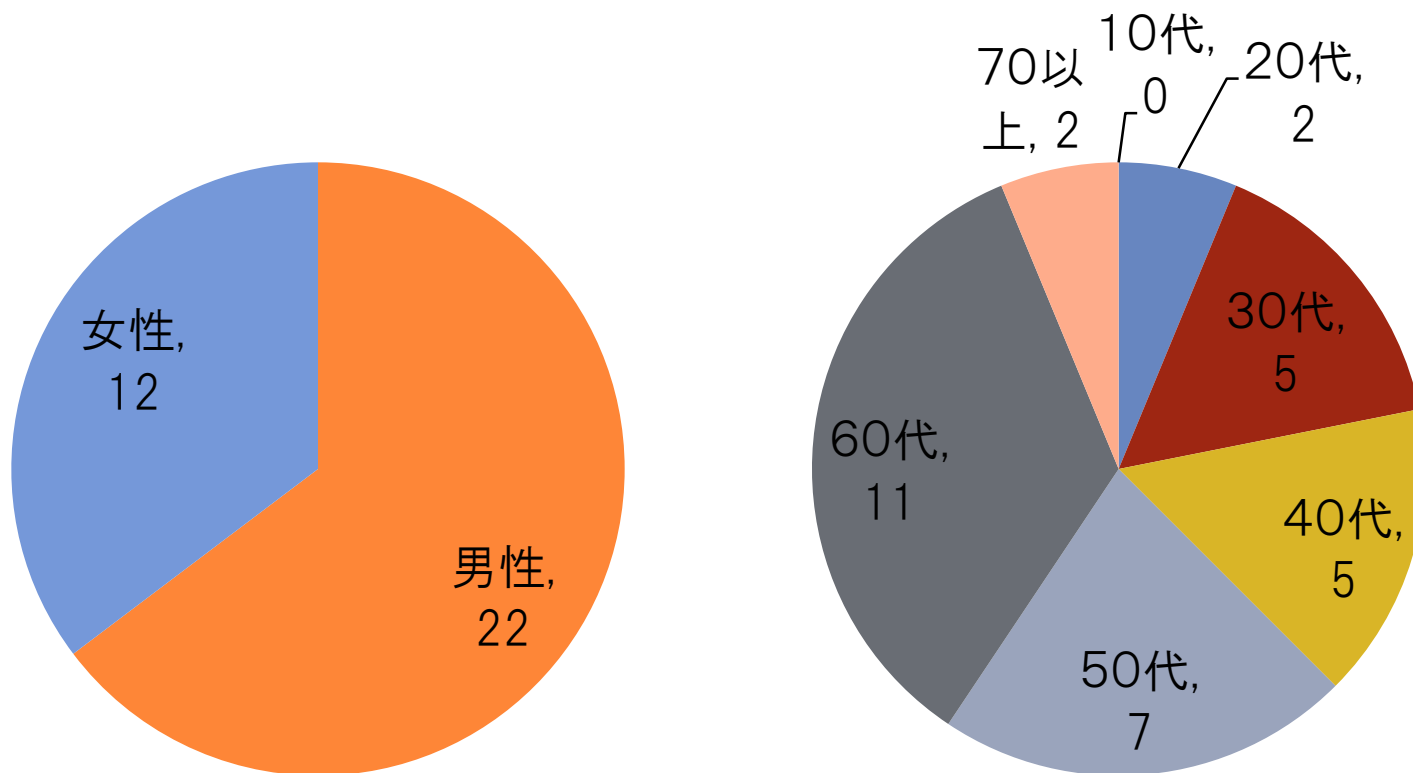
4. 利用後

- ・関係機関へ向けた報告会の開催、及び事後アンケートへの記入依頼

アンケート結果について

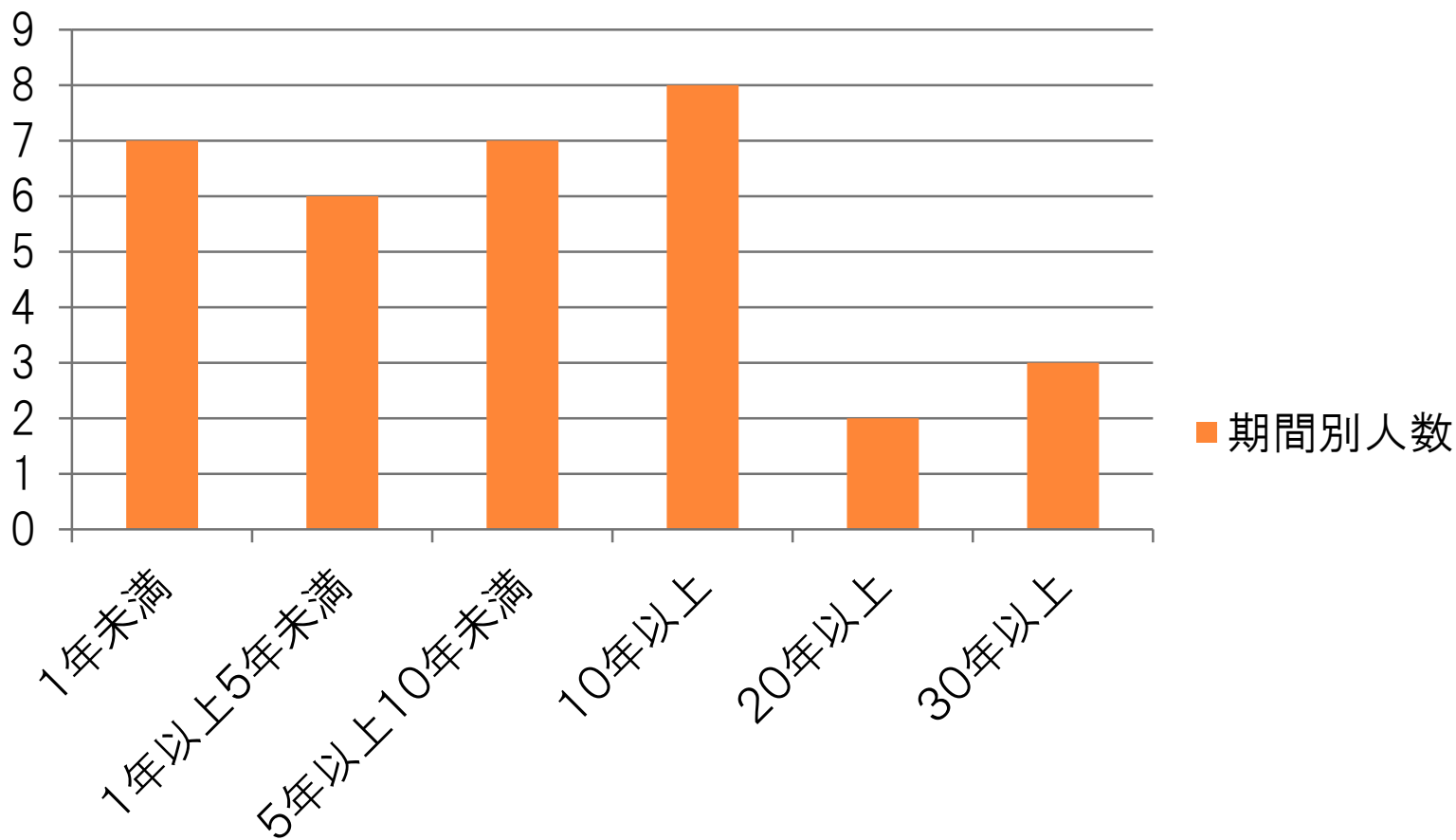
※6法人より、合計34名が利用

利用者の男女比、年齢について



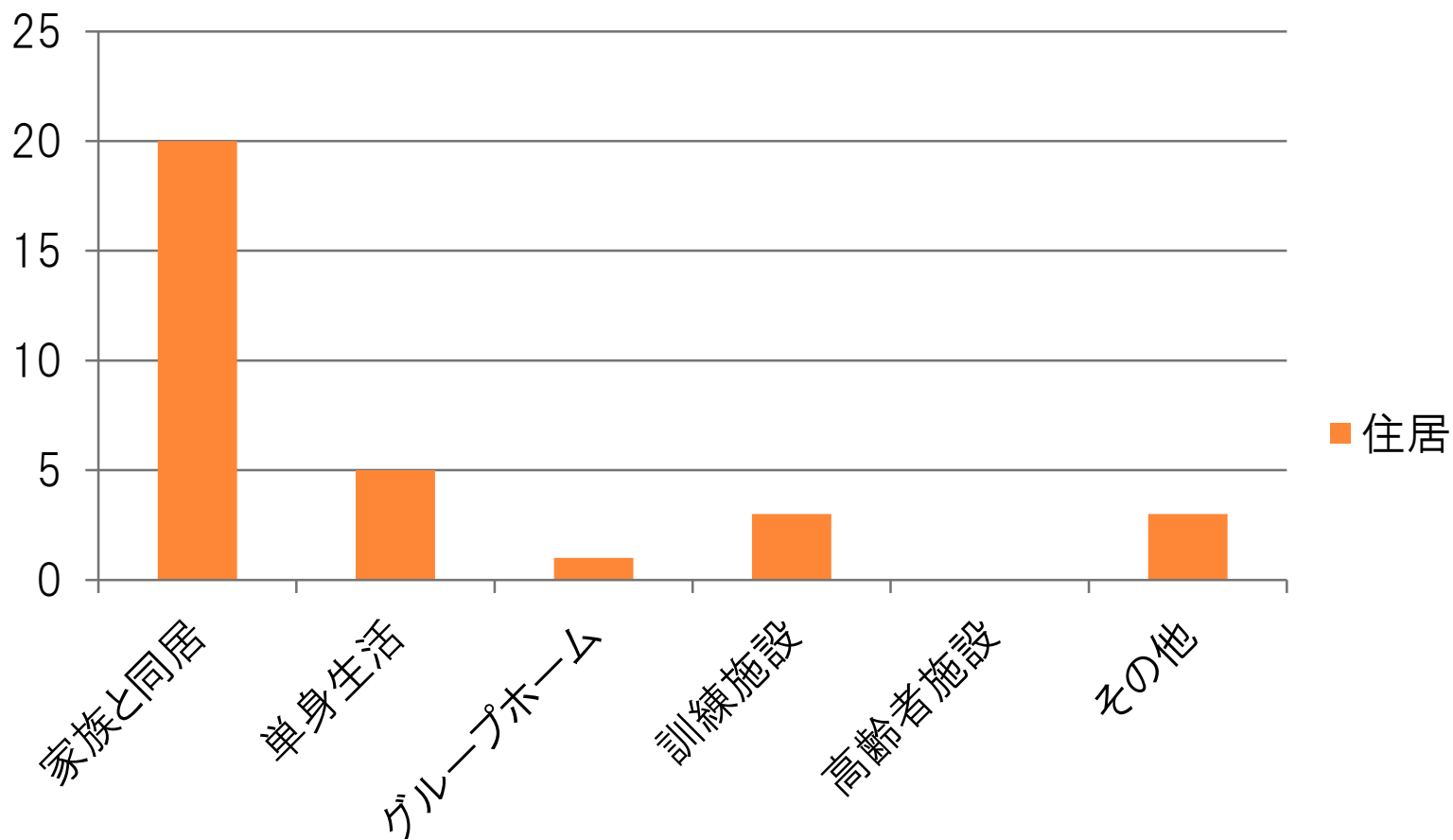
入院(入所)していた期間

期間別人数

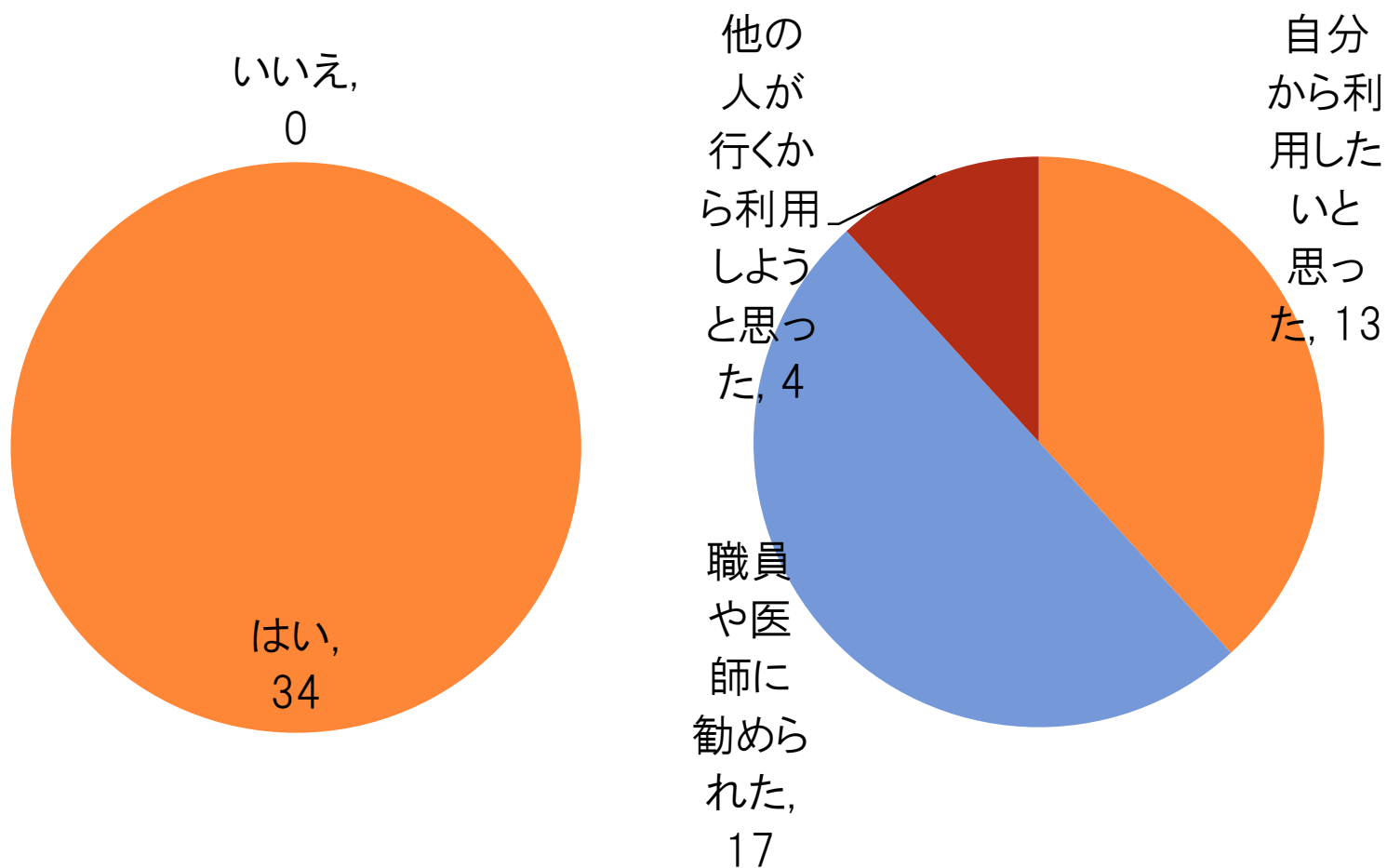


今回の入院(入所)前に住んでいた場所

住居

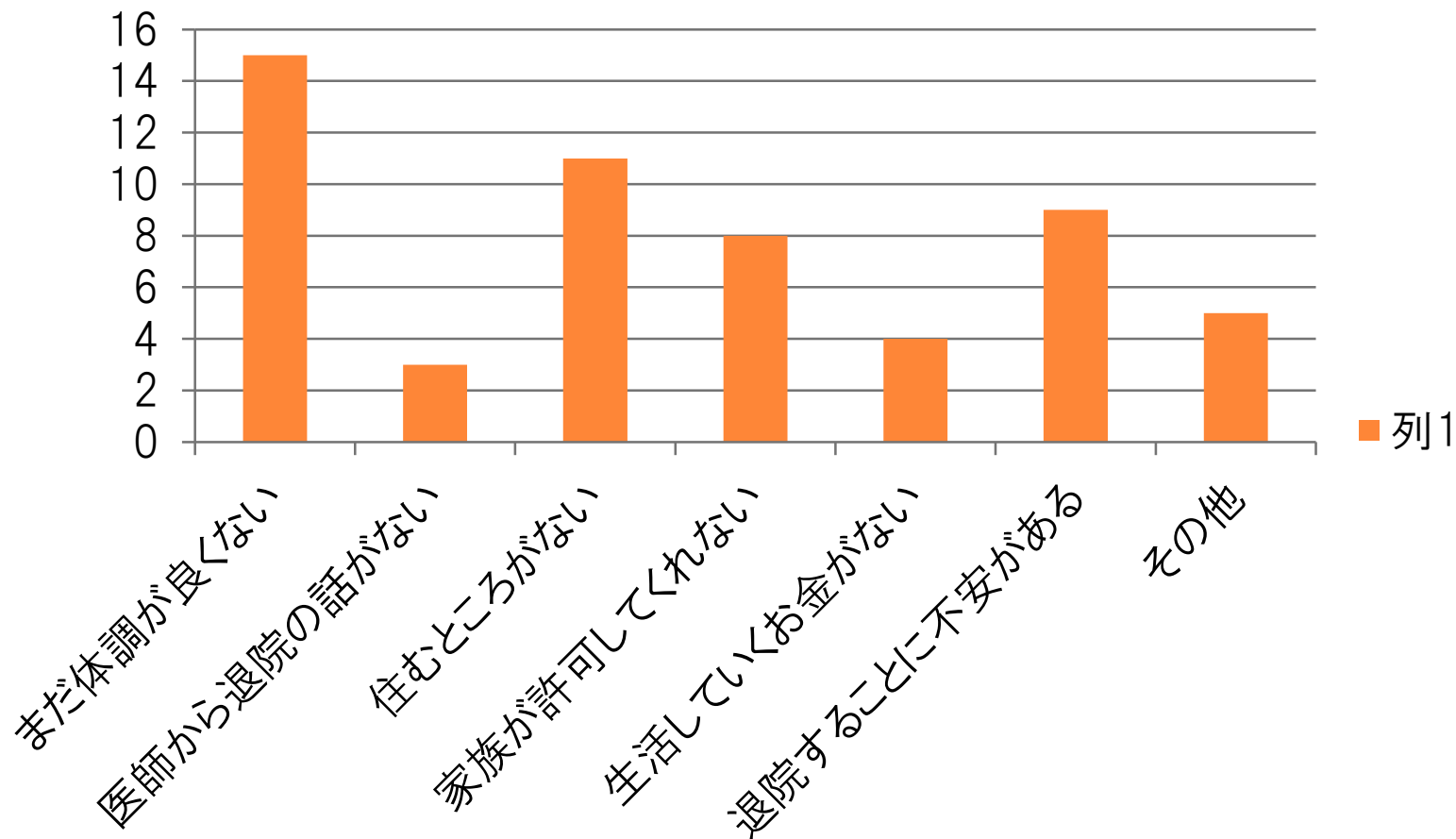


問. アパート体験を利用してみたいですか？

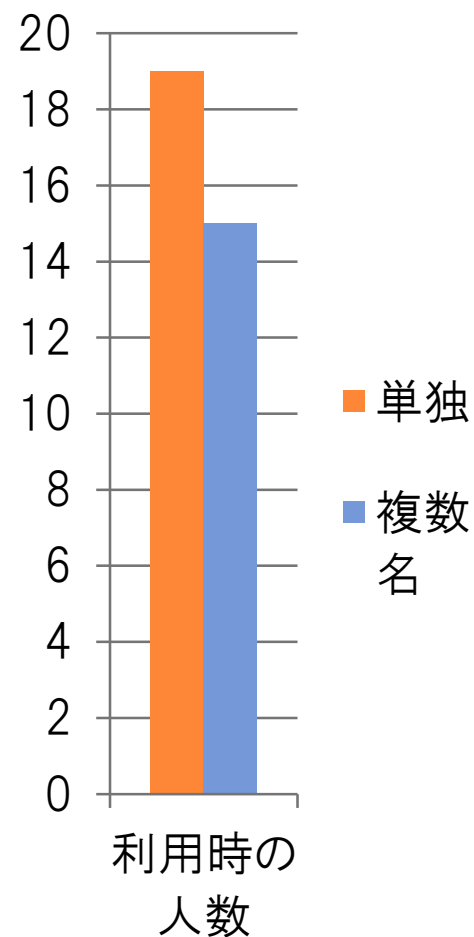
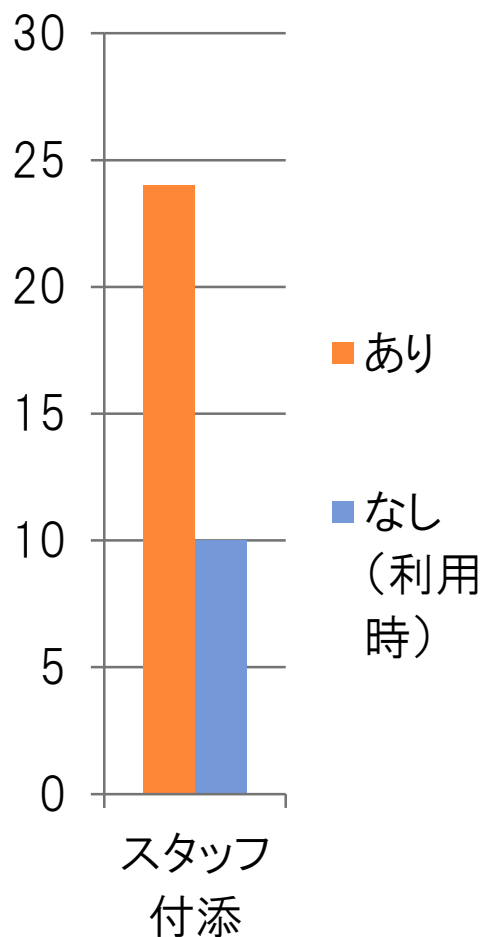
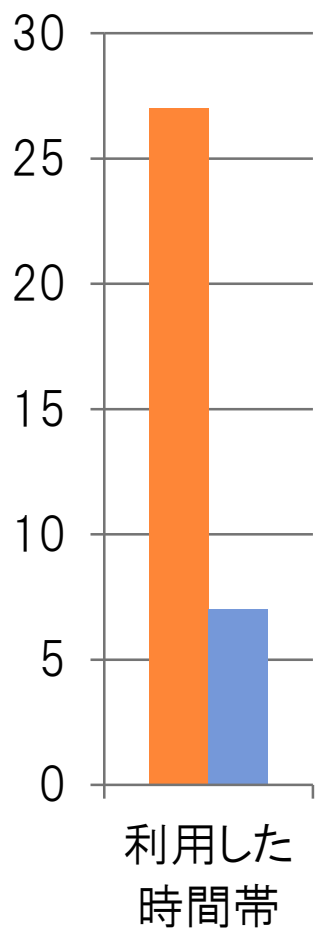


問. 入院が続いている理由を教えてください (複数回答可)

列1



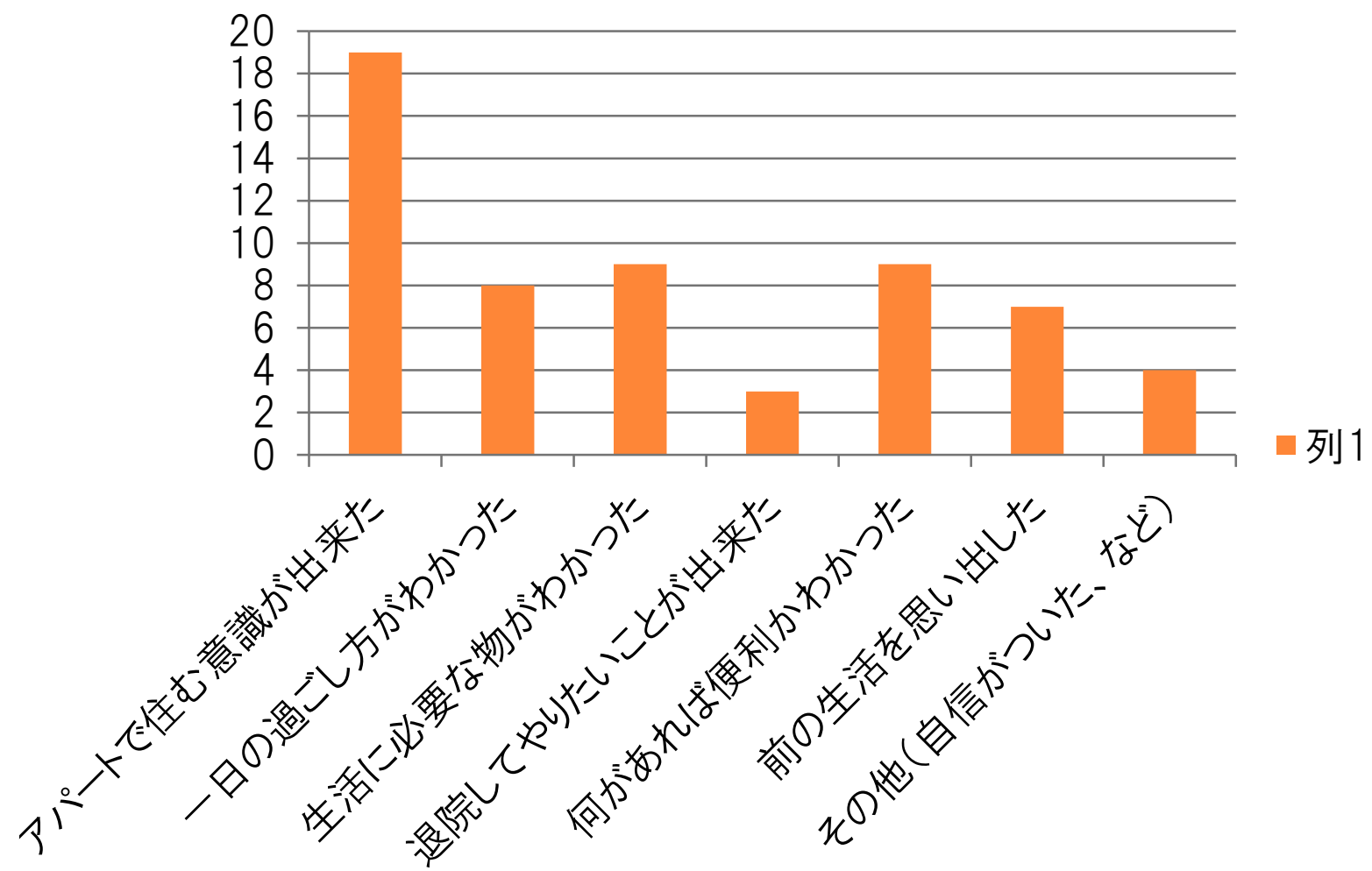
問. どのような形で利用したか



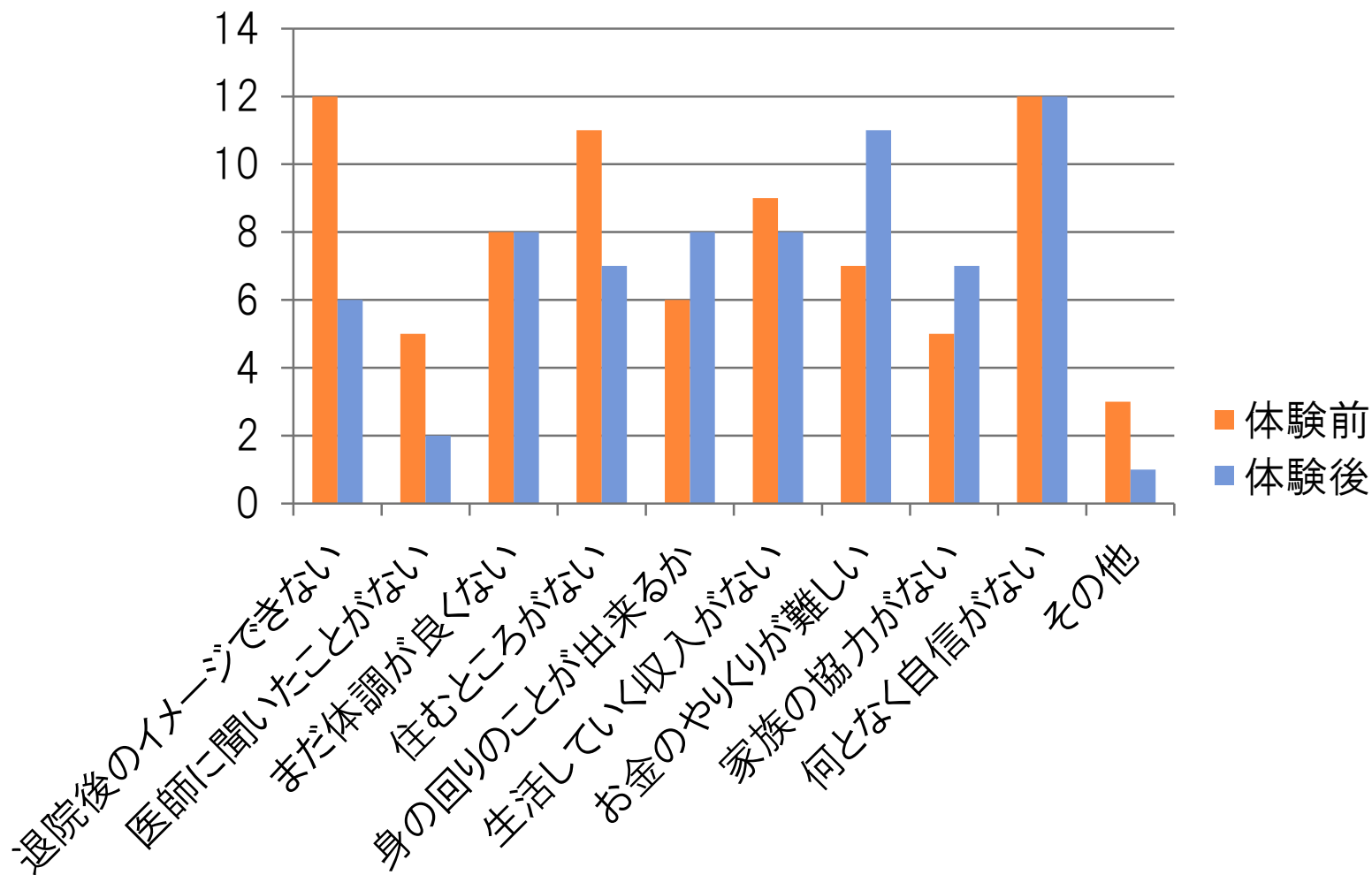
“アパート体験”による 意識の変化について

問. 体験利用したことで変化した意識を教えてください

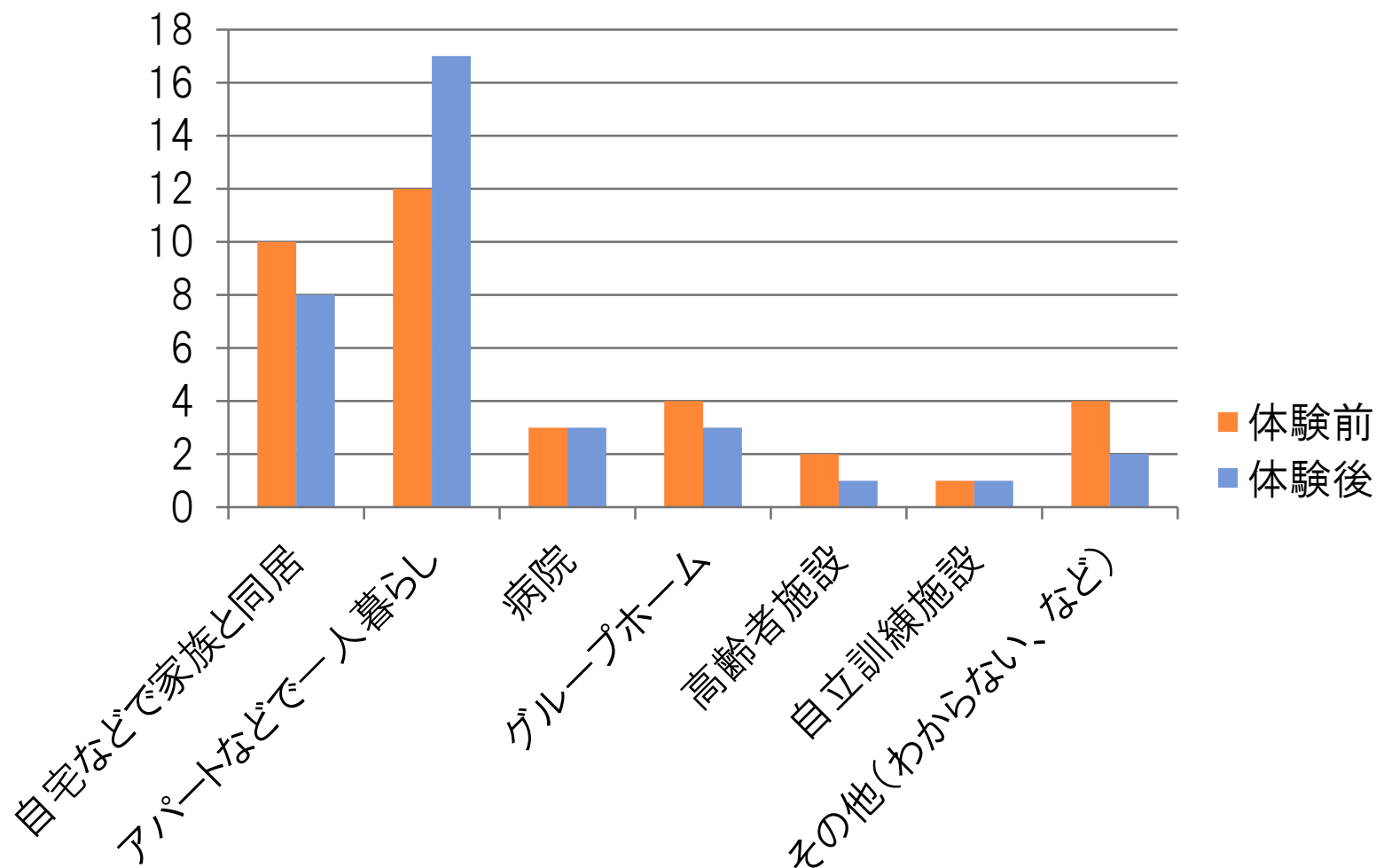
列1



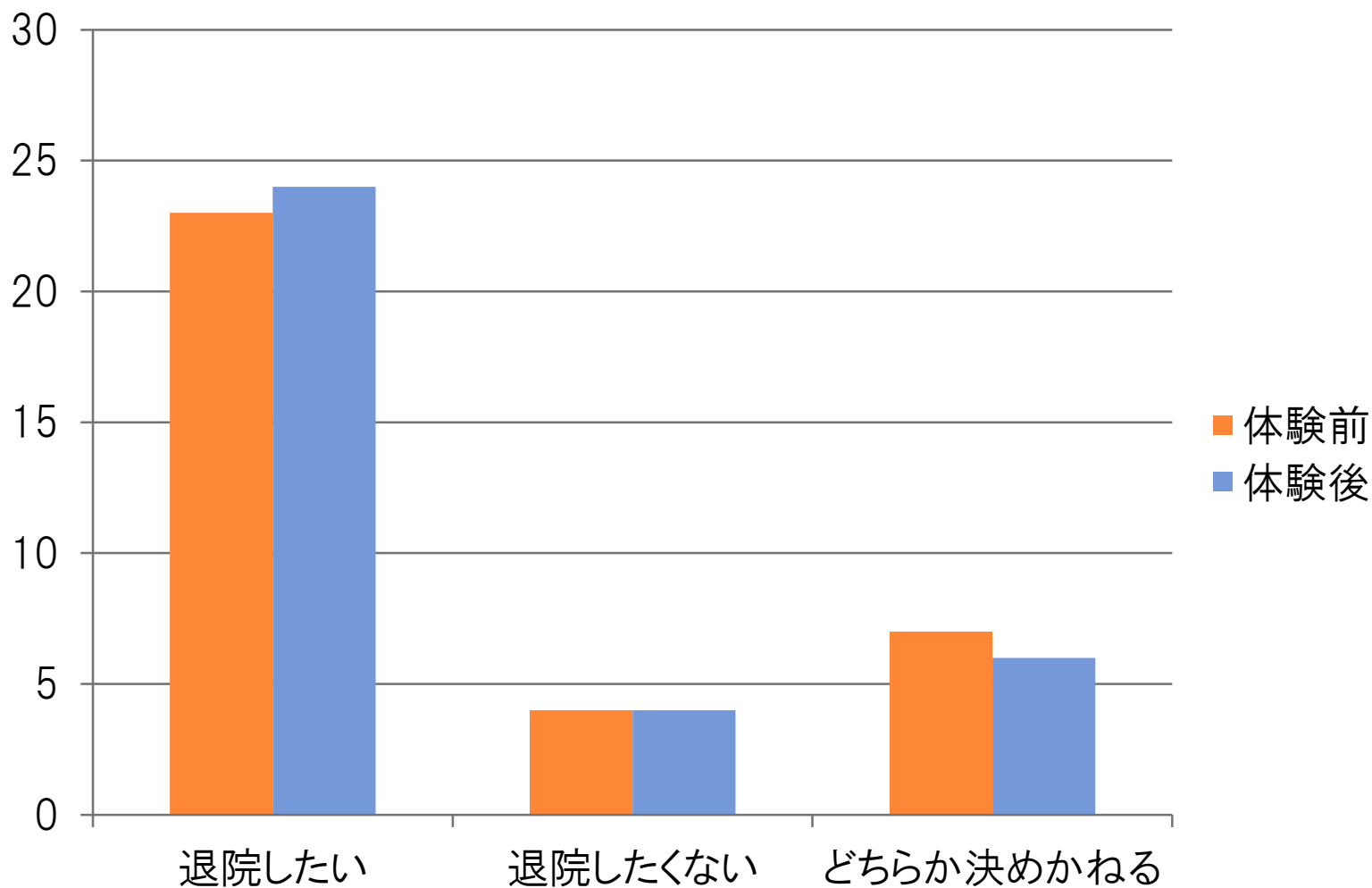
問. 退院を考えた時、不安に思うことはなんですか？(複数回答可)



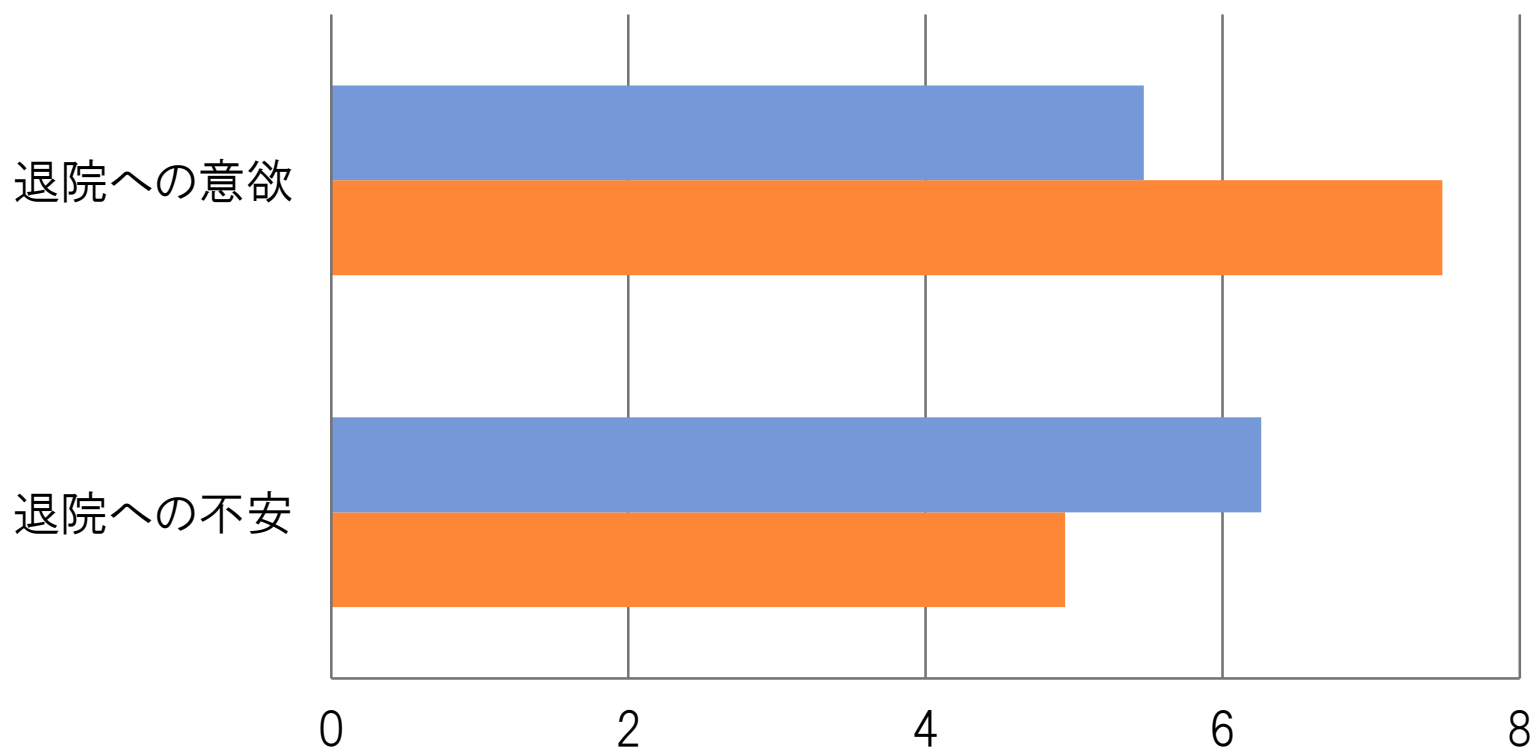
問. 自分が生活するのに合っていると思う居住地について教えてください



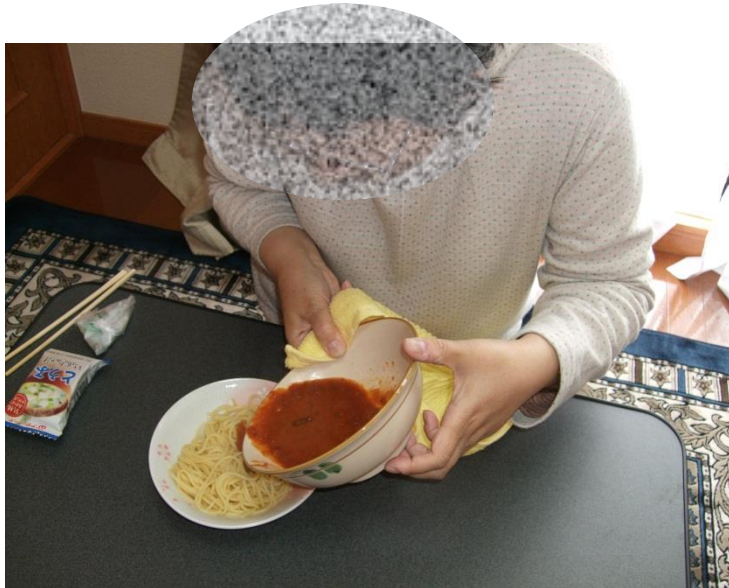
問. 退院について、どのように考えていますか



問. 退院への意欲、不安について(指数)



	退院への不安	退院への意欲
■ 体験前	6.26	5.47
■ 体験後	4.94	7.48





利用者の感想 ※一部抜粋

- 一人で昼食のハンバーグ弁当を食べながらテレビを見ました。自由な時間が過ごせてとても楽しかったです。
- 一人暮らしは難しそうと思っていましたが、体験の回数が多くなったので一人でも暮らしていけそうな気がしました。
- 楽しかった。
- 一人暮らしは難しいと分かった。
- 洗濯は出来なかったけど料理は出来た。
- アパートは初めて。思ったより広かった。
- 思ったより狭かった。
- 開放された気持ちになり、もっと元気にならなきゃと誓いました。
- 実際に体験してみて少し自信ができました。おかげで一人暮らしに近づけました。感謝しています。
- 一人暮らしのイメージがつかめました。頑張っていきたいです。
- 数十年ぶりにアパートに入って、昔の記憶がよみがえってきた。母親の元気な時の思い出がよみがえってきました。
- あまりわかりにくい場所はやめてください

アパート体験事業の成果及びその後の課題

- 当初の想定として、
「長期入院の方は退院意欲が乏しい？」
「アパート体験により退院意欲の向上に変化があるのでは？」
↓ 実際は・・・ ↓
- 「退院へ向けた関心」については大きな変化なく、約8割の方が体験前後ともに「関心がある」と回答
- 「地域生活への不安」が軽減
- 「退院後の生活に対するイメージ」が向上
- 問題意識に乏しい方も、体験により適度な不安を感じられ、サポートの必要性について認識されていた
- 家族やスタッフにも地域移行に対する肯定的な意識の変化がみられた

さいごに

「希望」を喚起する資源としての“アパート体験”

- 小さな成功体験を積み重ね、自己肯定感を高める
 - 支援者が当事者の「リカバリー」できる可能性を信じる
- ⇒「退院意欲の向上」だけでなく、「退院支援意欲の向上」を目指す
- 将来の成果は定かではないことに耐える
 - 「揺れ」による当たり前の変化への理解
(病状の悪化や意欲の増減など)



我々が、「あきらめない！」

今後ともご理解、ご協力をお願いいたします